# 第2章 “とちぎ”を動かす

経済・社会が地球規模で大きく変動するこの21世紀において、私たちは、先人が築き上げてきた郷土の魅力と可能性を最大限に活かし、「自らの未来は自らの力で切り拓いていく」という挑戦する姿勢を持って、これからの“とちぎ”づくりを進めていきます。

## 第1節 “とちぎ”の将来像

私たちが目指す将来像は、人々が豊かで活力に満ちた生活を営み、自然や街並み、そして人々の心が美しさとやさしさにあふれ、住む人にも訪れる人にも魅力ある郷土、そして未来の子どもたちにさらなる可能性を約束する郷土“とちぎ”。

この計画において、このような郷土の将来像を、

**「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」**

として掲げ、200万県民の皆さんと一緒になって、その実現に向けて全力で取り組んでいきます。

**活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”**

## 第2節 将来像実現のために　“とちぎ”づくりの基本姿勢

### ～「新たな“公（おおやけ）”を拓く」～

これからの社会は、まず、人と人とが互いに認め合い、協力し支え合う社会としていくことが重要です。そして、多彩な「個」や「地域」が、ある時は切磋琢磨しつつ、それぞれの個性や能力を最大限に発揮することによって、社会は発展していきます。

特に近年は、住みよい地域づくりや社会的な課題の解決を図るため、県民一人ひとりはもちろんのこと、ボランティアやNPOなどによる自発的な活動が様々な分野で芽生えています。そうした中で、これまで“公（おおやけ）”として行政だけが担うものとされてきた分野についても、行政と協働しながら“公（おおやけ）”を担っていこうとする動きも生まれてきています。

こうした多様な活動は、人と人とのつながりを強めるだけでなく、物や情報のネットワークを広げ、新たな地域の魅力や活力を創造していくための大きな力となることが期待されています。

“とちぎ”の将来像を実現するためには、県民や団体、企業、行政など“とちぎ”づくりのすべての担い手が、郷土が抱える諸課題の解決に向けて、積極的に参画していこうとする主体的な姿勢を持つ必要があります。

そこで、この計画では、「行政のみが“公（おおやけ）”を担う」という従来の考え方から脱却して**「新たな“公（おおやけ）”を拓く」**という考え方に立ち、すべての人がお互いの立場や垣根を乗り越えて、郷土の課題に対して一緒になって取り組むことができるよう、これからの“とちぎ”づくりの原点となる「人と社会のあり方」を、「県民一人ひとりが主役の“とちぎ”」、「県民が協働する“とちぎ”」、「地域が自立する“とちぎ”」の3つの基本姿勢としてお示しするものです。

今後は、こうした考え方を県民の皆さんと共有することによって、本県の将来像である「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」を実現していきたいと考えています。

## 1 県民一人ひとりが主役の“とちぎ”

社会は人によって成り立ち、そして人は社会によって生かされます。

近年は、経済的な豊かさだけを追い求めるのではなく、他者や社会とのかかわりの中で生きることや人間として成長することに喜びを見出し、そして、精神的な充足感や真の豊かさを得ようとする考え方が広がりを見せ、自己実現に重きをおいた生き方、働き方を選択する動きが出てきています。

これからの“とちぎ”は、すべての県民が、学ぶこと、働くこと、生きることについて、その意味や目的、そして喜びや楽しみを見出すとともに、社会に積極的に参画し、貢献していく、

**県民一人ひとりが主役となる社会**

としていかなければなりません。

県民一人ひとりが、それぞれの個性を伸ばし、能力を高めるとともに、その個性や能力が最大限に発揮されることによって、活力ある地域が生み出されていきます。

## 2 県民が協働する“とちぎ”

社会は人と人とのかかわりを通して形づくられていきます。

近年は、住民やボランティア、NPOなどによる多種多様な社会貢献活動が活発になっています。こうした活動は、「何か社会に役立ちたい」という県民意識の高まりを反映しており、身近な社会の問題を自らの問題として考え、そして行動することによって、自らはもちろん、周囲の人々にとっても心やすらぐ地域や社会を創造していこうとする意識の現れでもあります。

これからの“とちぎ”は、県民一人ひとりやボランティア、NPO、企業、行政などが、それぞれの立場を越え、さらには性別や世代といった垣根にとらわれることなく、連携・協力していく、

**県民が協働する社会**

としていかなければなりません。

すべての県民が、互いを認め合い、それぞれの個性や能力を持ち寄り、そして協力し支え合うことによって、真に豊かな地域が創られていきます。

## 3 地域が自立する“とちぎ”

社会のありようは、地域自らが選択し決定できるようにすべきです。

地方分権や規制緩和に代表される改革の動きは、政治・経済分野にとどまらず、住民あるいは地域、企業などが、自らの将来の方向を自らが選択し決定できる社会を目指すものです。折しも、自発的な地域活動が各地で展開されるようになり、「地域のことは地域で解決する」という意識が、広く定着してきています。

これからの“とちぎ”は、地域のあらゆる主体が連携・協力し、主体的に課題を解決していく、

**地域が自立する社会**

としていかなければなりません。

自立する個人とその相互関係でかたちづくられる自立した地域が、これからの“とちぎ”づくりの原点であり、21世紀に“とちぎ”が飛躍する原動力となります。

## 第3節　県土の姿・とちぎデザイン

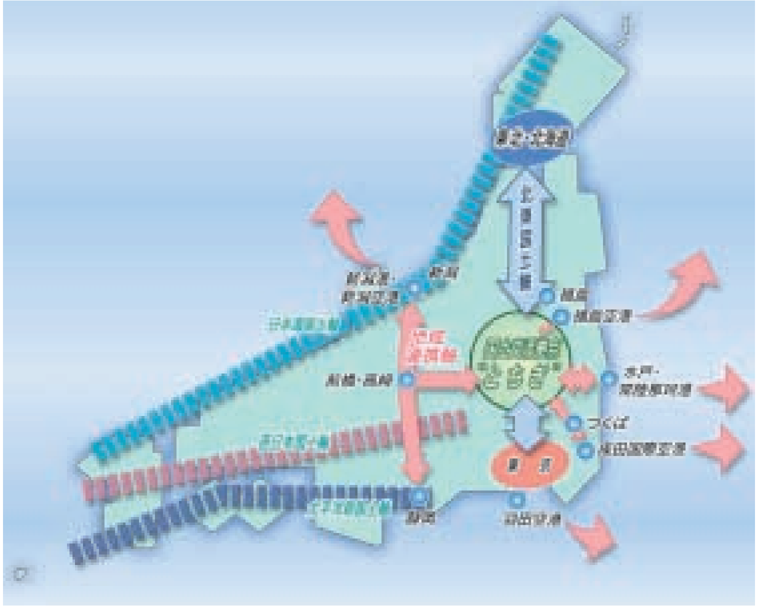
ここでは、「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」を実現するための県土づくりの基本方向と、“とちぎ”のデザインを示します。

### 1　県土づくりの基本方向　－国土交流拠点“とちぎ”－

栃木県は、首都東京に近接し、東北縦貫自動車道や東北新幹線などが東京から本県を貫いて東北地方・北海道までを結び、多様で広域的な交流が行われています。また、首都圏の一翼を担う北関東の各都市を中心とした地域間連携が進められており、今後は、北関東自動車道の整備が進むことにより、この連携が一層強化されると考えられます。

この恵まれた条件の中で、本県が持つ特色ある地域資源を活かした県土づくりを行うことにより、様々なスケールでの交流・連携の成果を、県土の発展と県民生活の質的向上に結び付けることが県土づくりの基本方向となります。

そのために、地域間の交流・連携の基盤を強化・活用し、持続可能で自立・安定した地域づくりを進め、国内はもとより世界を視野に入れたあらゆる分野での「国土交流拠点“とちぎ”」を目指していきます。




「国土交流拠点“とちぎ”」の概念図

### 2　“とちぎ”のデザイン

#### （1）コリドールネットワークの強化

本県では、交通基盤等を軸に、人、物、情報、技術、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを“コリドール”と呼び、3つのコリドールと3つのサブコリドールから構成されるネットワークの形成を進めてきました。

このコリドールネットワークの強化・活用により、県内各地域間はもとより、全国や世界との交流・連携が進展します。

## (2) 特色ある地域づくりと交流・連携

県土の発展と県民生活の質的向上を図るために、県内各地域が資源を活かした特色ある地域づくりを進め、それぞれの魅力と活力を高めるとともに、機能分担と相互補完による都市的サービスの発展を図り、持続可能で自立・安定した地域社会の形成を目指します。

各地域では、県民やボランティア、NPO、企業、行政などが互いに連携・協力し協働の地域づくりを行うことにより真に豊かな地域が実現し、さらに、それぞれの地域同士の交流・連携を進めることにより、単独の地域だけでは得られない新たな魅力や活力を創出することが可能となります。

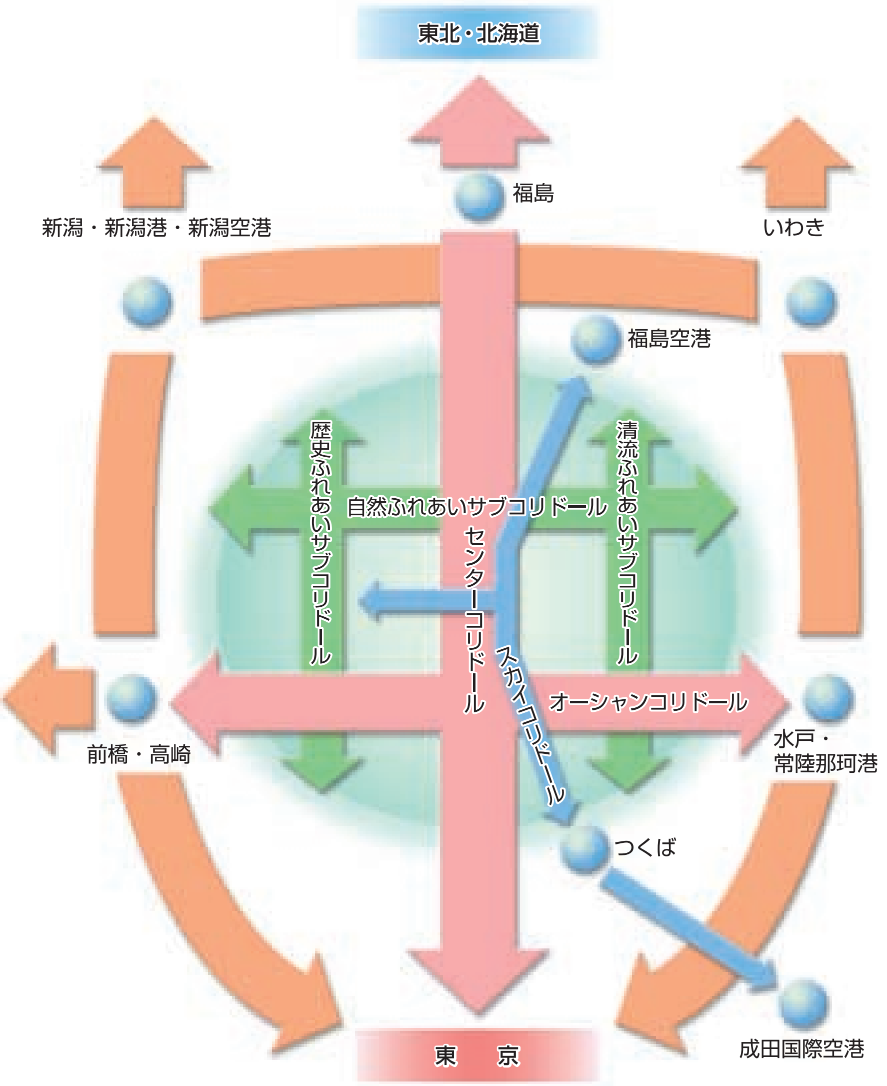
このように特色を活かした地域づくりが重層的に行われ、コリドールネットワークによって県内が縦横に結ばれることで、多彩な“とちぎ”が花開きます。

## (3) 広域交流・連携

新たな時代の潮流の中で、経済のグローバル化による国境を越えた地域間競争が激化しており、また、県域を越えた広域的な連携により対応していかなければならない課題なども生じています。

このような流れの中、他県と境を接する県際地域では、隣接県及び関係市町村との連携・協力のもと、生活、産業、文化などの交流が積み重ねられており、今後さらにその連携を深めていきます。

また、コリドールネットワークの強化により、近隣各県との交流・連携のネットワークが形成されてきています。このネットワークを利用し、空港・港湾などの活用や防災面、観光面における連携など、県域を越えた多様な交流・連携を進め、経済活動の一層の活性化や広域的な課題の解決を図り、さらには“とちぎ”の魅力や活力を世界に向けて発信していきます。




コリドールネットワークと県域を越えた交流・連携ネットワーク